



菊陽町が同町原木の菊陽杉並木公園内に整備した「くまモンアーバンスポーツパーク」



アーバンスポーツ支援へ連携協定

菊陽町と締結 住民の健康づくりにも寄与

菊陽町と熊本保健科学大学は「アーバンスポーツの科学研究及び健康増進に関する包括連携協定」を締結し、7月2日（木）、菊陽町役場で締結式を執り行いました。

アーバンスポーツとは、都市空間で行われる若者に人気のストリート系スポーツの総称です。同町は今年4月、スケートボードやBMX、3×3バスケットボールに対応した西日本最大規模の「くまモンアーバンスポーツパーク」をオープンさせています。

本協定は、同町と本学が相互に連携・協力し、本学が有するスポーツ医科学および健康科学に関する専門的知見を活用して、アーバンスポーツ競

技者に対する科学的支援をはじめ、住民の健康づくりや健康寿命の延伸に向けた取り組みを推進することを目的としています。さらに、アーバンスポーツに関する科学研究や専門人材の育成を通じて、地域の活性化およびスポーツ振興に寄与することを目指します。

締結式では、菊陽町の吉本孝寿町長、本学の竹屋元裕理事長・学長が協定書に署名しました。今後は、本協定に基づき、「くまモンアーバンスポーツパーク」を世界水準の競技・研究拠点するとともに、地域住民の健康づくりを支える拠点としての機能を高め、さらなる発展を目指します。
(健康・スポーツ教育研究センター 中村祐貴)

君の夢が誰かの希望になる

学生募集キャッチフレーズ決まる

若い感性で高校生に魅力発信

高校生に「ワクワクする大学像」を届けるため、広報委員会が本学学生を対象に公募した「学生募集キャッチフレーズ」の審査が終わり、第1位には「AIに負けない」さん（ペンネーム・医学検査学科1年）の「君の夢が誰かの希望になる」が選ばれました。

同作品は、既に大学ホームページで公開されています。広報委員会では今後、オープンキャンパス当日の掲示や、各種広告媒体への掲載も検討しています。

募集は5月中旬～下旬にかけて行われ、計54作品が寄せられました。広報委員会の審査では、1位作品と、2位、3位、佳作の計7作品を優秀作として選びました。7月7日（火）に開催した表彰式では、多久島寛孝広報委員長が選考の経緯を説明し、受賞者に表彰状と副賞を授与しました。会場は温かい拍手に包まれ、学生の若い感性が大学の魅力発信につながる取り組みとして、参加者全員が大きな意義を感じる時間となりました。

(NL編集部)

広報委員会の多久島委員長（中央）と受賞学生たち



小学生に向け からだの仕組み説明を

アカデミックスキルⅠ

1 年次生 寸劇仕立てで発表会

全学1年次生に向けた必修科目「アカデミックスキルⅠ」では例年、「体のしくみや機能などを小学生にも分かりやすく説明しよう」という課題のもと、寸劇に挑戦しています。今年度も7月の第2、3週に発表会を行い、学生たちがアイデアあふれる作品を次々と披露しました。

授業は、「伝える」難しさと楽しさを体験し、アカデミックスキルⅡのライティング、同Ⅲのプレゼンテーションにつながることを目指しています。学生たちは4～5人のグループに分かれ、それぞれテーマを設定。資料調べに始まり、シナリオや大道具・小道具づくりに励んできました。

発表会前にアカデミックスキル支援センターが開いたサポートアワーには、放課後に関わらず指導を求めるグループが殺到。学生指導員、学生リーダーや担当教員の助言を受けたり、グループ同士で感想を述べあったりと、会場のキャンパステラスは熱気に包まれていました。また、昼休みや授業の空き時間を利用して劇づくりに励むグループも数多くみられました。

発表会では、各グループが5分間の持ち時間で次々と熱演。コミカルな演技に笑いが巻き起こる場面も見られました。学生間の投票などで「優秀」と認められたグループ（複数）は、8月8日（土）に開催される「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大」で、小中学生を前に上演します。

（アカデミックスキル支援センター）

アカデミックスキル
支援センター

レポート

舞台上で熱演する学生
たち。手作りのかぶり
物も登場しました



熱気に包まれた練習風景。サポートアワーには指導希望の班が殺到

「エイエイオー」と氣勢を上げ、健闘を誓い合う選手たち



氣勢上げ いざ出陣！

九州インカレ壮行会

九州インカレの壮行会が7月6日（月）、50周年記念館で行われ、出場するバレーボール部男子とバスケットボール部男子の計20人の選手が激励を受けました。

竹屋元裕理事長・学長が「優勝目指して頑張ってほしい」と選手たちを鼓舞し、西村衣純学友会会長（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年）が「ひと試合ひと試合、悔いのないように」とエールを送りました。選手を代表して、バレーボール部の田淵唯流さん（医学検査学科2年）が力強く選手宣誓。最後に学長の音頭で全員が「頑張るぞー！エイエイオー！」と氣勢を上げ、士気を高めました。

今年の九州インカレは長崎地区で13競技が行われます。（NL編集部）

ストライクに大きな歓声

26チーム参加しボウリング大会

恒例の球技大会（ボウリング）を6月20日（土）、熊本市西区のラウンドワンで開催しました。今回は26チーム、約100人が参加し、チーム対抗戦を実施しました。

同所での開催は初めてで、明るく開放的な雰囲気の中、新鮮な気持ちでプレーを楽しむことができました。ストライクチャンスの際に会場が一気に盛り上がり、学年を超えて声を掛け合う場面も多く、チーム同士が励まし合いながらプレーすることで自然と一体感が生まれました。

互いに切磋琢磨しながら取り組む時間となり、終始活気に満ちた大会となりました。（学友会会長 西村衣純=理学療法学専攻3年）

学友会日誌



競技終了後、記念撮影する参加者たち

図書館運営委員会主催の「私の部屋でランチを」を7月7日（火）、キャンパステラスで開催しました。七夕の日に第77回と7が並び「記念」の今回は、本学の卒業生でもあるキャリア教育研修センターの島野彩香助教が「なりたい自分をデザインする一様な経験から育む私の看護キャリアのかたち」と題して話しました。

看護学科卒業から臨床経験、そして認定看護師課程

へ進むきっかけとなったその後の経験、さらに今年度から本学教員になった道のりを認定看護師の業務も合わせてわかりやすく話しました。今後は、認知症の非薬物療法についての研究テーマに取り組んでいくとのことでした。

参加者からは、「本学のロールモデルのような方で是非、看護学科のほうでもお話をいただきたい」との声がありました。

（図書館）



「なりたい自分をデザインする」という演題で話す島野助教

私の秘話 ヒストリー

経営企画課
中野啓史 課長補佐



行政にいた頃、熊本市の街なかにある「花畑広場」の運営管理をしていました。ただのただっ広い空間と言われればそれまでですが、街の賑わいと憩いの空間となるような“場づくり”に取り組んでいました。例えば、近隣の高校との企画で広場を花壇で彩ったり、可動式のストリートファニチャーを導入したりするなど、利用者との協働で色んなアイデアを具体化してきました。取組みを通して、工夫やしつらえ次第で、何でもない空間がどんどん“色づいていく”ことを学びました。

そんな経験もあり、普段からちょっとした空きスペースが目に残るようになりました。実は本学のキャンパスでも、気になっている場所があります。それは、図書館と3号館の間の芝生の空間です。特に用途はないようですが、何となく、のどかで

“キャンパス”と“街”

いい場所だと思います。近くを通るたび“学生が自由に憩えるオープン・カフェだったら”“ワークショップにも使える交流の場だったら”と勝手に想像しています。“キャンパス”も“街”も、どこか相通じる部分があるように思います。皆さんも、気になる場所はありますか？



第一高校との共催イベント
（令和5年4月30日撮影）

養成講座で基礎知識学ぶ 定着した試験対策相談会

ピア・サポーター

ピア・サポーター養成講座を6月27日（土）、キャンパステラスで開催し、ピア・サポーター60人、プチ・サポーター61人が参加しました。主な内容は、Values Cardを用いたグループワーク、5月相談会の振り返り、ピア・サポートとは、修学支援に必要な用語・制度など基礎知識、基本的な傾聴スキルなど。学科・専攻に分かれてオープンキャンパスを想定したロールプレイも行い、説明内容や言葉遣い等を確認しました。

また、7月1日（水）から3日（金）までは、昼休みに定期試験対策相談会を開催し、多くの来場者がありました。相談会活動が恒例行事として定着したようです。うれしいですね。7月、8月のオープンキャンパスでの活躍も期待しています！

（学生相談・修学サポートセンター）

写真上は、養成講座に臨む学生たち。同下は、定期試験対策相談会で1年次生の応対をするピア・サポーター（右）



行事予定（7月21日～8月3日）	
7/21（火）	大学訪問（九州学院・ルーテル学院）
7/24（金）	臨地実習適格認定書授与式（助産） 就勝ガイダンス（リハ4年）
7/30（木）	前期授業修了
7/31（金）～8/10（月）	前期定期試験（予備日含む）

※「NEWSLETTER333号」は8月3日（月）に配信します。